

中学校 国語科 部会

部会長 糸田中学校 校長 村上きぬよ
実践者 川崎中学校 教諭 白石 千景
研究員 鷹峰中学校 教諭 犬丸 成美

1 研究主題

人の生きる姿や社会について自分の考えを深めるための国語科指導

2 主題設定の理由

生徒の実態から

本学級の生徒は、明るく、他者に対する思いやりのある生徒が多いため、学級全体の雰囲気は温かく共感的なものである。しかし、学力の低い生徒が多く、深い読み取りは難しい実態がある。全国学力実態調査によると、国語A・B問題ともに自分の考えを深めて「書く」領域で正答率が低く、「書く」ことに対する抵抗感を持つ生徒が多いことがわかった。また、B問題に見られるように思考力・判断力・表現力を伴う問題が苦手であることもわかった。また学習状況調査では、学校以外の勉強時間が不足していること、国語に対する学ぶ意欲や興味、読書時間などが低く、大変厳しい状況であることがわかった。

3年生の生徒たちは、まもなく、義務教育を終えようとしており、自分自身の生き方や社会とのつながりについて真剣に考える時期であるといえる。この時期にこの教材を学ぶことは、社会に出て行く生徒にとって、自分自身に目を向けるだけでなく、他者や社会との関わりにも目を向け、自分の意見を持ち、深めるためのよい機会になると考え、この主題を設定した。

3 主題の意味

「人の生きる姿や社会」としたのは、本単元「故郷」の社会状況の中の人々の生き方を中心に扱ったためである。本単元は、中学校学習指導要領「C読むこと」の指導事項（1）のイ『文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること』、エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと」の能力を育成することをねらいとして設定されている。

この「故郷」は、文学によって中国の近代化を進めようと尽力した中国近代文学の父と呼ばれる「魯迅」の生き方や考え方が良く表れた作品である。彼は、当時の中国社会の現実を描くことで、社会の変革を求め、新しい生活の実現を願った。その願いは、「私」が絶望を乗り越えて獲得した思想であり、作者自身の思想でもある。時代も国も異なる作品で、現代の中学生には理解しにくい部分もあるが、困難な状況の中でどう生きるかについて考えることは、未来に希望を見いだしにくい現代にも通じるものであり、意義深いことだといえる。

4 研究の目標

互いの意見を関連づけながらグループ交流することを通して「故郷の景色」がなぜかわったのかについて深まった自分の考えをまとめることができる。

5 研究仮説

- ①生徒が作品に積極的に関与し、深い理解を促すような学習環境を設定し、本時の問いを持つことができるように「故郷の景色」の変化を具体的に振り返った上で、なぜかわったのかを問いかける。(問いづくり)
 - ②グループ活動をする際、模造紙に各自の意見を要点をキーワードで記入させ、それを矢印やラインなどの記号を用いて関連づけながら考えさせる場面を設定し、話し合いをさせる。(思考づくり・話し合い活動)
 - ③理由や根拠を明確にして、自分の考えをもつことができるようにし、記述のモデル文を提示するとともに、発言内容を模造化して板書したり、まとめのキーワードを強調したりして板書する。(思考づくり・書く活動)
 - ④本時学習の価値を自覚できるようにするために、互いの意見を関連づけながらグループ交流したことによって考えが深まったことを賞賛する。(価値づくり)
- 以上の手立てを講じれば、生徒はグループ交流を通して互いの意見を関連づけることができ、「故郷の景色」の変化が意味することについて、自分の考えを深め、まとめることができるであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元 「故郷」 魯迅

(2) 単元の目標

単元	総時数 8 時間	時期 1 1 月
単元の目標	○状況に生きる人間の姿について興味・関心をもち、積極的に人間や社会に対する考えを深めたり、交流したりしようとする。(関心・意欲・態度)	
	○場面や登場人物の設定・描写について考え、描かれている状況や登場人物の心情を理解することができる。(読むこと)	
	○作品に表れているものの見方や考え方をとらえ、人間や社会に対する自分の考えを持つことができる。(読むこと)	
	○心情や感情を表すための効果的な表現をとらえ、作品の読みに生かすことができる。(言語についての知識・理解・技能)	

○単元指導計画

次	時	学習活動・内容	指導援助	評価規準
一	1	・この単元で身につけたい力と学習の流れを知る。・作者や時代背景について確認する。・漢字や語句の確認をする。	・状況の中で生きた人の例をあげ、ポイントを説明し、理解させる。(マザーテレサなど)	・作者の時代背景について理解しようとしている。(関心意欲態度)
	2	・作品を通読し、あらすじをつかむ。・心にとまった表現や登場人物についてまとめる。	・範読を聞きながら気になる部分に線を引き、読後にまとめる。	・作品を通して気になった描写や登場人物を指摘し、進んで読もうとしている。(関心意欲態度)
二	3	・作品の構成を知り、登場人物の関係を人物相関図に表す。 ・情景描写に着目しながら帰郷の場面の「私」の心情を読み取る。	・人物関係図のモデルを示し、主要な登場人物を明確にした上で書かせる。・情景描写と心情の重なりに着目して暗く沈んだ気持を読み取らせる。	・登場人物の関係を捉え、対比に着目しながら人間関係を図示している。(読む能力)
	4	・回想の場面から、少年時代の「ルントウと私」との関係や、ルントウに対する心情を読み取る。	・会話や色彩表現に着目して心情を読み取らせる。	・「私」とルントウとの関係が対等であること、「私」がルントウに憧憬の年を抱いていることを読み取っている。(読む)・心情や表情をとらえる際に、語句や表現に着目している。(言語理解)
	5	・再会の場面から、ヤンおばさんとルントウの変容と「私」の心情を読み取る。	・外見を表す表現や会話文に着目して変容を読み取らせる。	・人物描写に着目してヤンおばさんとルントウの変容をとらえ、「私」の心情を読み取っている。
	6	・帰郷の場面から、故郷を去る「私」の思いを「希望」という言葉と登場人物の設定の仕方に着目して読みとり、「私」の望む生き方を考える。 ・「私」の心に浮かぶ「故郷の景色」の相違点を確認し、なぜ変わったのかについて自分の考えをまとめる。	・比喩表現についての説明をし、正確な読み取りができるようにする。 ・視点の変化にも目を向けさせる。・モデル文を示して記入させる。	・「希望」という言葉に着目して、作品に込められた作者の思いについてとらえ、まとめている。(読む)・「故郷の景色」の相違点に気づき、まとめている。(読む)
	7 本時	・「私」の心に浮かぶ「故郷の景色」がなぜかわったのかについてグループ交流し、考えを深める。	・模造紙に要点やキーワードを書きながら交流することで、それぞれの意見を関連づけて考えさせる。・学習シートを用い、交流前後の自分の考えの広がりや深まりに気づかせる。	・互いの意見を関連づけながら、グループ交流し、自分の考えを深めようとしている。(関心意欲態度) ・交流を通して深まった考えをまとめている。

8	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をふまえ、「私」の心に浮かぶ「故郷の景色」の未来像を書き、グループで交流し、人間の生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル文を示して、登場させる人物、視点の変化など具体的に考えさせる。 導入で紹介したマザーテレサなどの生き方とあわせて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの意見を関連づけながらグループ交流し、自分の考えを深めようとしている。(関心意欲態度)
---	---	--	---

7 指導の実際

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準(方法)	配時	形態
入	1 前時までの学習を振り返り、本時のねらいを確認する。	○本時の問いを持つことができるように「故郷の景色」の変化を具体的にふり返った上で、なぜ変わったのか問いかける。	5	全
	お互いの意見を関連づけながらグループ交流し、「故郷の景色」がなぜ変わったのかを考えよう。			
展	2 グループ交流を行う。 (1) 自分の意見を発表する。 (2) 交流を通して考えを深める。	○発表した意見の要点やキーワードを、模造紙に各自で記入させる。 ○グループ(班)は生活班を用い、国語担当のリーダーが司会を務める。司会者から意見を発表し、模造紙に記入。その後、交流を行うように指示する。 ○矢印や線などの記号を使って互いの意見を関連づけながら交流させる。 ○机間指導を行い、進捗状況を把握する。話し合いの進まないグループには助言を与える。 ○全員の意見を出し合い、交流した後、グループで一つの意見にまとめさせる。	2 2	班
開	予想される要点・キーワード ○ルントウに失望 ○自由で明るいルントウは消えた。 ○過去を振り切った。 ○昔には戻れない。 ○希望を持っている。 ○前に進もうとしている。 ○夢や希望を表している。 ○未来の可能性	(評価場面1) ○互いの意見を交流しながらグループ交流し、自分の考えを深めようとしているか。 (評価方法) 様相観察・模造紙へ記入 A : 互いの意見の要点やキーワードを記号を使って的確に関連づけたり、新たな意見を書き込んだりしながらグループ交流し、まとめようとしている。 B : 互いの意見の要点やキーワードを記入し		
	予想されるまとめ ○過去を振り切って未来に進もうとしているから。			

○自由で明るいルントウは消えてしまったが、まだ次の世代の希望はあるから。

○私とルントウはだめだったが、ホンルとシュイオンには変わらずにいてほしいと願っているから。

(3) 班として1つの意見にまとめ、発表用の模造紙に記入する。

3 グループの意見を1分間プレゼン発表させ、共有する。

4 グループ発表で共有した意見を元に、全体で話し合う。

ながらグループ交流し、まとめようとしている。

C：課題が理解できず、グループ交流が進まない。支援→机間指導を行い、つまずきの状態に応じて説明したり、助言したりする。

○納得できる意見となるよう、根拠や理由を踏まえてまとめるように指示する。

○黒板に貼ったときに読みやすいように、文字の大きさやバランスを意識して記入させる。

○グループとしての意見を発表する際、プラスαとして少数意見やアピールしたい点などを自由に発表させる。

○最終的な自分の意見をまとめる活動で参考にするために、他のグループの発表を聞く際にはメモをとりながら聞くよう指示する。

○共有した意見や生徒の発言から「具体から抽象」の考え方となるものを取り上げ、話し合いを深める。例として「平和式典で放たれる鳩」が「平和」そのものの「象徴」となっていることなどをあげ、では「すいか畑」が何の象徴になっているのかを考えさせる。

*すいか畑 → ルントウとの楽しい思い出
*金色の月を見上げる→夢や希望、可能性

○「ルントウとすいか畑が消えた理由」「金色の月を見上げている理由」を確認し、まとめを行う。

・ルントウとすいか畑が消えたのは、現実のルントウに失望したから。
・金色の月を見上げて終わっているのは、未来に希望を抱いているから。

8 全

1 全
0

		↓ 過去の思いでは色あせ消えたが、未来に希望を抱いているから。		
終 末	5 本時の振り返りをする。	<p>○グループ交流を通して深まった自分の考えや、本時の学習で気づいたこと、感想などを学習シートにまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">(評価場面 2)</p> <p style="text-align: center;">「故郷の景色」がなぜかわったかについて、交流を通じて深まった考えをまとめている。</p> <p style="text-align: center;">(評価方法)</p> <p style="text-align: center;">学習シートへの記入</p> <p>A : 交流で触れた他者への考えを自分の考えと関連づけ、より説得力のある表現を使ってまとめている。</p> <p>B : 交流で触れた他者の考えを参考にして自分の考えをまとめている。</p> <p>C : 交流した内容を自分の考えに生かすことができていない。→ 机間指導をして、つまずきの原因を確認して助言する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">まとめ：互いの意見を関連づけながらグループ交流し、深まった自分の考えを学習シートにまとめている。</p> </div>	5	個

8 研究のまとめと今後の成果と課題

班活動は、参加意識を持って取り組むことができるので、随時活用すべき学習形態である。またこの「話し合う活動」によって、全員の話し合いが活発に進んだことで、模造紙による関連づけが有効となり、「書く」活動へとつながった。書き込む模造紙の大きさは学びには適していたが、ペンの配色や書き方を統一すべきであった。また、個人の考えも掲示すると変容がわかり、さらに効果的であったと考えられる。また各班に役割を与え、それぞれが段階を追って考えを深める工夫などが今後できるのではないかと考える。話し合い自体は深まりが見られたが、語彙の乏しさからまとめに不十分な班があったことと、時間の都合上、教師がまとめを急いだ部分は今後の改善点である。「問いづくり」に関しては、交流をつくり出すためには授業規律や約束ごとが徹底されていることと、適切な「問い」が有効であることがわかった。話し合いが

スムーズに進み、それぞれが「書く」活動へつなげることができ、またよい意見には拍手がおこったり、その場をしっかりとまとめようとする者がでたりするなど、生徒たちはこの活動の中でリーダー性も育成されたといえる。この授業では、言語活動の改善、充実を図るために「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を促したことによって、生徒の自己有用感、達成感も生まれるなど、一定の成果があったといえる。

◎参考文献

○中学校国語学習指導要領

○中学校国語科アクティブ・ラーニング 富山哲也編著 明治図書

○アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校国語科の授業プラン 吉川芳則著 明治図書